

# よき師

# よき友

有朋自遠方来  
不亦樂乎

（友遠方より来る また楽しからずや）

（富士見ゲート 学生ホール掲示）

（飯田橋駅からの母校ボアソナードタワーを望む）



石川正彦氏・画（昭和四四年 経済学部卒）  
令和四年の新年会会場で「市ヶ谷駅方面からの母校」の絵と合わせ実物を展覧の予定です。

## 新潟支部主管「県校友会」役員人事決まる

法政大学新潟県校友会は令和三年五月より長岡地域と上越地域の主管（各三年）を経て新潟地域支部の主管となりました。役員人事は次の通りです。

▽会長 宮下好文（新潟支部会長）

▽副会長 新潟支部を除く九支部の各会長

▽幹事長 小林保夫（新潟支部幹事長）

▽事務局長 市川正和（新潟支部事務局長）

▽会計監事 白勢恵子（新潟支部副会長）

同 西方 晃（新潟支部幹事）

以上です。どうぞよろしく願います。

□「箱根駅伝」へ新潟から力強く応援だ！

恒例の箱根駅伝に向け、我が法政大学駅伝チームも満を持して出場します。残念ながら二一年初の駅伝は一七位とシード権こそ逃がしましたが、同年十

## 大学時代の思い出

一年生の秋、それまで属していた文化人類学研究所のサークルを辞め、山登りのクラブに入部した。その名をMSY（ワンダーシユポルトフェライン）顧問でドイツ語の教授だった山本太郎先生が付けてくださった名前、山歩き同好会という意味らしい。

最初の合宿は三月の北八ヶ岳、いきなり雪道を歩いた。一年生の荷物とはにかく重く、登りではへばつてくると顔が地面に着く程前かがみになって歩いた。夏合宿では十日以上山で過ごすことがあり、仲間と二十四時間ずつと一緒の生活



が続いた。台風の中一歩も進めず、潰されそうなテントを一緒に押さえながら一日過ごすこともあった。

苦楽を共に過ごした仲間とは、今でも兄妹のように仲が良い。心から『宝物』と思える。私の大学時代の思い出は、山登りの仲間と過ごしたとき一時間で満たされている。（田部典子 昭和六一年文学部卒）

## 新潟支部の案内や連絡

はこれまでアナログ中心でしたが、新潟各支部ともにデジタル化が大幅に進んでいます。卒業生がふらりと新潟に来て大丈夫。パソコンは勿論、スマホからでもアタックしてみてくださいネ。

月の予選会では六位とまずまずの成績でした。坪田智夫駅伝監督は「目標の五位以内に食い込み、皆さんの期待に応えたいです」と話しています。エースの鎌田航生（四年）はこの春の学生ハーフマラソンで優勝しており「皆さんが驚くような走りをしたい」と意気込む。チームは七月・九月にかけ本県の妙高市や長野県上田市で強化合宿しましたが、県校友会として上越支部の協力も得て“激励”の差し入れを行いました。

▼コロナ禍が災い「二〇二一年の支部活動状況」△

（一月一六日）支部新年会中止（四月一六日）

春季ゴルフコンペ（五月）県及び支部総会止む無く中止で書面郵送による総会案件議決（十月七日）

秋季ゴルフコンペ（十一月五日）支部役員会

## ▽新シリーズ「大学時代の思い出」がスタート

上段にあるように、新潟支部会員の“思い出”シリーズを随時掲載します。第1号は田部典子さんです。実は既に保坂大成さんからも原稿を頂いていたのですが、スペースの都合で次回に。すみません。